

比田井慎爾さん連載「半生記」 ダイジェスト版 第1回～7回

第1回 大泉の学窓から信州へ

大泉高校を卒業後、東京農工大学農学部（府中市）、卒業後長野県諏訪郡原村 八ヶ岳中央農業実践大学校（現八ヶ岳農業大学校）で生徒として1年、職員として4年世話になりました。以後48年信州暮らしです。

以下は八ヶ岳の麓で暮らし始めて数年の頃の対話です。

お爺様：おめえだの出身は、どこでえ？

私：日本です（第1戸籍京都、出生東京、小学校入学時札幌…と説明）

お爺様：あんたを見て、外人たあ、思わねえぜ…

私：…農場のショオです（八ヶ岳農業大学校関係者の呼ばれ方）

お爺様：おっ！農場けえ～

長野県諏訪郡原村や、周辺地域皆さんは、私たち八ヶ岳の仲間を底々ご存知です。

隣町富士見町も多数の満州開拓者を輩出し、先の大戦敗戦後、満州富士見分村人々は全員生きて帰国しました。

やがて1970年代初期、日中国交回復となり、満州に残された残留孤児皆さんが次々と出生を明かし、身元を本国に問い合わせました。当時やけに長野県出身者が多かった事はご記憶でしょうか？身元判明に貢献したのは満州富士見分村生存者他、信州の引き揚げ者さんでした。

だから、原村のお爺様が「農場けえ」と言ったのは「あんたも満州開拓の関係者だったのか」という印象を語ったのでしょう。その気持ちに、現代オールドメディアが叫ぶ様な植民地批判、人権侵害、といった語感は無いと私は感じます。

例えば八ヶ岳中央修練農場から満州二龍山分校（八ヶ岳農業大学校開設当時の名前）に進学した開拓者は、現地の人々が「あんな所で農業ができるはずがない、馬鹿だな日本人は」と嘲る中、その不毛の地で見事に収穫してみせました。これは満州の陸軍中將が樋口季一郎（資料a）氏であった時代の実話です。だから、信州の人々による満州への思いは多様です。そこで、出身を尋ねられると、私は答えます「旧八ヶ岳中央修練農場42期生です」。さらに詳しく聞かれると、都立大泉高25期、東京農工大学農学部S53年卒、日本人の比田井慎爾です、と答えます。



実践大学校 北側



実践大学校 南側



東京農工大農学部 正門 並木

第2回 大泉の学窓から信州へ その2

大泉高校を卒業後、東京農工農学部、八ヶ岳農業大学校を経て、長野県諏訪地方の食品会社で勤務中、お得意様との対話です

得意先：おめえ、東京農工大学出身というじゃないか

私：はい

得意先：三億円事件のあそこいらだな

私：はい、でも盗んだのは自分ではありません

得意先：いんね、おめえならやりそうだ

私：自分は事件当日中学2年生ですよ

得意先：歳をさばよんでる、違うか？

私：自分ではありません、手配写真の注意書きにあったじゃないですか

得意先：なんか、あったか？

私：一見いい男風…って書いてありましたよ

得意先：おう、書いてあった

私：自分は一見ぶさいくな男です

得意先：あっ！おめえじゃねえ、わかった

東京農工大農学部一帯は三億円事件当日の夕刻から警察官が十m毎に並び、中から出てくる人はすべて警察に連行したそうです。同時代18歳以上の男性は、不愉快な取り調べに閉口したことと思います。この捜査は通称ローラー作戦と呼ばれ、70年安保沈静に絶大な貢献があったそうです。(資料b 門田隆将「9大未解決事件の真犯人！」)

私は取り調べは受けませんでした。夜自宅周辺でジョギングをしていると、度々職務質問されました。たぶん大きな事件の関連だったのだらうと思います。民間勤務の頃は、三億円犯人に似ているとよく言われ苦労しました。その代わり、お得意様やメーカーさん皆さんから覚えていただけて、光栄でした。でも「三億円のあいつ」です。

では学生運動とどう向き合ったのか、私は誘われても断りました。でも、農学部学生なのに農業を全く知らないのは恥と思い、援農に参加しました。援農とは、三里塚闘争で手薄になる農家を後方支援するための、これも学生運動でした。先の大戦後、生き残り復員してきた兵士には仕事がありませんでした。兵士に仕事を与えるため、例えば「開拓」は国の重点政策でした。ようやく農家として自立でき始めた千葉県三里塚という「開拓農家」に今度は「空港建設立ち退き」という試練。これに怒った学生達が反対運動を起こし、三里塚闘争となったと、私は当時教わりました。学生運動全盛期よりは後の世代である私から見ると、「横田を帰してもらふ運動の方が大事では？」事実2026年の今、多摩モノレールは箱根ヶ崎へ延伸と報道され、横田を軍事民間共用の声があがり始めています。ある意味学生運動の成果かもしれない、と私は思います。

第3回 大泉の学窓から信州へ その3 “食品会社から高校教師への巻”

今回は食品会社時代から県立高校勤務時代に移っていきます。

八ヶ岳から諏訪市の食品会社に移ったのは、地域とのつながりを大切にしてきた八ヶ岳皆

さんに習い、私は地元会社に転職、日曜にキリスト教教会で礼拝を守ることを大切にするためでした、その後健康上の理由から県立高校に勤務するようになり、今回の対話は私と地元高校生の対話が文末に出てきます。

1980 年代初期、寅次郎かもめ歌（資料 d）を松本開明座（当時）で鑑賞。私も他のお客さんも、皆しんみりとなり、大笑いしました。そして私は「俺も学校へ通いたい、貧乏な会社員だけど…」と決意しました。かもめ歌作品中で紹介された濱口國雄詩集（資料 e）作品「便所掃除」は今も私の心に深く残ります。私も埃まみれで働く食品会社の社員でしたから。色々調べて、放送大学を知り、創立間もない「長野学習センター」（当時東京第 2 学習センター諏訪分室）に入学、祖父江孝男先生（資料 f）や同学派の文化人類学者さんから講義を受け、長野県諏訪地区には、地域の祭りが今も残り、諏訪地方の人々は千数百年以上これを受け継いでいることを知りました。放送大学入学以前の私は「日本全国、何千年もの歴史や伝統を残している」と思っていたのですが、長野県は独特でした。例えば祭りの度毎、諏訪の若者たちは遠方から帰省し、やがては出身地に根を下ろし、地域を支えてゆきます。もちろん、過疎、限界集落といった地域の問題も同じ諏訪で同時進行しています。こんな諏訪地方で、私は 37 年暮らし、奥さんと死別してから佐久に移住、2026 年現在は移住して 10 年になります。移住してから名字は比田井に変わりました。

その私がなぜ地域の共同体「ゆい」の大切さを訴えるのか、その理由は諏訪地域での公立高校勤務 25 年に由来します。以下はある高校生との対話です。

高校生： おい！馬鹿シンジ！俺の推薦書を書いてくれや！
私： 君を、俺が、褒めるのか？
高校生： そうだよ、頼むぜシンジ
私： 君はトップだったな
高校生： トップ…？何のことだ？
私： 遅刻の回数だよ
高校生： よしてくれよ！それは内緒にしてくれよ
私： 当該生徒は何よりも家族を大切にし、家業を手伝う為…
高校生： そんなじゃねえよ、俺はただの寝坊だよ
私： では、こんなんでもうだ？
高校生： 何？
私： 当該生徒は地域の祭りを大切にし…
高校生： ああ、そうだよ、祭りが生きがいなんだ、俺は
私： 地域の伝統文化である、諏訪太鼓を演奏する…
高校生： あたりまえだよ！諏訪人なら
私： よその者から見れば、当たり前ではない
高校生： え～！よそのやつらは太鼓も打てねえのか？
私： 打てないよ、受験勉強しか、してないから
高校生： へえ～！

私： 地域の文化を継承し、当該生徒は…

高校生： 俺を褒める材料があったんけえ～！

こうして無事就職した彼は、地域の事業所でチーフを務め、もちろん地域文化を今も支え続けています。

以下の写真はその彼ではありませんが 2024 年 8 月岡谷太鼓祭りの一場面です。（岡谷市は諏訪広域に入り、諏訪市に隣接）



第4回 大泉の学窓から信州へ その4 ”放送大学で強めたのつながりの大切さの巻”

放送大学長野学習センターが関東地区以外の諏訪にできた背景には、電波事情があります。諏訪地方のある場所に東京の電波が受信できる場所があったことが一因でした。これを諏訪地方の CATV が各家庭に配信し始め、全国でも珍しい普及率を出しました。詳しくは（資料 j）を参照ください。

1980年代初期、私も諏訪の CATV をアパートの自室に引き、放送大学授業の視聴を始めました。以後、放送大学在学38年になります。この間私は高校理科教師勤務の材料として放送大学 TV による生物講義を使いました。こうして放送大学や八ヶ岳農業大学校時代、地域とのつながりの大切さを学びました。

地域の共同体には様々な呼び方があります。例えば高校の農業教科書では「ゆい」と記しています。「ゆい」は農業教科書で、農山村のコミュニティの基礎…（資料 g）と説明しています。この共同体は助け合いなどの相互扶助（資料 g）を意味し、都市の住宅街の町内会を大きくしたもの、と捉えて良いと思います。

前回触れた祭りはその一例で、人々の繋がりや町興しに成長していった例もあり、かなり大型です。もちろん逆に人口流出の原因となった事例もあります。20世紀までなら、住民と言えば移動する人ではなく、長く同じ地域に住み、何世代も続きました。近年こうした地域に新しい仲間が加わっています。（資料 h）



クラインガルテン／立科町

（資料 h）クラインガルテンとは教科書で市民農園（資料 i）とも説明しています。

ここで紹介した長野県北佐久郡立科町のクライנגアルテン資料をご覧になると、明るい気持ちになる方もおられると私は期待します。

しかし、落胆してしまう例も対話で紹介しておきます。私とある高校生との対話です。数十年前の信州での対話です。

私：消防団に、君は入ってくれるの？

高校生：絶対嫌だ、あんな下品な人たちの仲間に俺はなりたくない

私：確かに下品な話をして盛り上がっているね

高校生：俺も下品だけど、あんなにひどくない

私：では、もう少し消防団員さんが上品になったら、団に入るの？

高校生：嫌だ、高校を出たら県外へ行く

私：いつか、信州へ戻ってくれるんでしょ？

高校生：絶対帰らない

私：祭りの時ぐらいは帰省するんでしょ？

高校生：どうしようかなあ…

その後こうした高校生たちがどうしたか、私の知る範囲で紹介しておきます。

私の出す年賀状の宛先住所がこの20年で、地元に戻ってきています。人数は4～5人、地域全体では前回紹介した岡谷太鼓祭り写真に写っている若者たちの数と一致しそうです。

前回その3で岡谷太鼓祭り写真をご覧になって「この地域には、どうしてこんなにも多くの若者が居るの？」と思われた皆さんに、何かの答えとなっていればと願います。

第5回 大泉の学窓から信州へ その4 ”地元高校生の意識改革を図る巻”

皆さんが、「クライנגアルテン？ そんな話にのる奴が居るとは思えない…」なら、私も同感です。

事実 2021 年～23 年県立高校農業科で授業を担当した際、当時の高校生から同じ事を言われました。以下は農業授業（グリーンライフ他）での対話です

私：俺の意見！…日本で農業をしてくれる人が居たら公務員にしたらどうだ？

高校生：いくらくれるの？

私：年収いくらなら君は農業をしてみたいと思うのかな？

高校生（指を1本たてる）

私：年収1億？そんな高年収は総理大臣でも、もらってないぞ

高校生：いや、1千万円

私：1千万にしても、公務員の最高年収の上だぞ、その1千万で何をしたいんだ？

高校生：飲む、打つ、買う！

私：そっちへ行くか、営農計画じゃないのか

こんなやりとりをしながら、私はクライングアルテンを説明しました。

すると高校生たちは「そんな話にのっかる奴が居るとは思えない」と言い、周囲も同感します。ならば、と私は決意し、生徒を長野県北佐久郡立科町（たてしなまち）クライングアルテ

ン横の道の駅（資料k）に連れて行きました。

その4で紹介した写真の隣接地です。確かに住人の気配があるクライנגルテンを見た高校生は「え！本当に居るんだ、クライングルテン」と言うと、納得し、直行したのがアイスクリーム売り場。立科町教育委員の方から話を聞いたりして、学校に戻りました。

少なくともクライングルテンが私の作り話ではないと納得したように私は感じます。このクライングルテン見学の仲間で林業に就職した高校生が2人、造園関係1人、他合計で5人近くは農業関連に進みました。もちろん八ヶ岳農業大学校も紹介しましたが「嫌だ、そんな所」と言われ、私は落胆しました。ところが、私の授業担当ではない高校生が一人、八ヶ岳農業大学校に入学してくれました。

今回クライングルテンと道の駅を話題にしました。

これらの授業と関連し、中山道も話題としました。全世界に古い街道は残っていますが、中山道の場合は縄文時代から黒曜石を運ぶ街道でもあり、通る場所は少々違うとは言え、桁違いに古い街道です。興味がある方は諏訪郡下諏訪町、和田峠、星糞、立科町近辺から軽井沢、碓氷峠を越えた坂本宿など多数の地域で古道めぐり情報がありますから、参考にしてください。最近では佐久市香坂山遺跡も話題です。

私の授業では高校生があまり中山道に関心を示さなかったので、深入りは避けました。立科町には中山道当時の松並木を保存している場所もあります。そんな場所を歩いて何が面白いの？という感想もあるでしょう。しかし、毎年冬が終わると旧中山道をわざわざ徒歩で歩く旅人がおられます。遠い外国の方も歩いておられます。これは私たち日本人が思う以上に重要な観光資源なのかもしれない、と私は思います。

「ゆい」の仲間にかうした旅人も加えてくだされば、私の心に灯火がともる思いです。私も何回か遠い国を旅したからです。旅先で英語会話力の乏しい私に、訪問先の人々は温かく接してくれました。半生記その9あたりから、遠い国での交流と「ゆい」の世界発展に触れたいと願います。



資料k 道の駅立科

第6回 大泉の学窓から信州へ その6 “車掌車アートでつながる地域と学校・若者の巻”

2018年、私が軽井沢の高校に勤務中のことでした。

小諸東地区PTA（軽井沢駅から小諸方面へ4番目の駅近辺）さんとの会合に出席し、しなの鉄道平原駅（資料L）が話題になりました。当時この無人駅の駅舎は旧国鉄時代の車掌車。

駅舎は国鉄時代から設置されていたそうです。ところが、どしゃぶり雨となると雨漏りが激しく、高校生は駅舎の中で傘を頼りに保護者の自家用車を待ちました。これは気の毒との声があがり、私はメモをとり職場へ報告。すると困りごとは学校長を通してしなの鉄道に届いた模様です。というのは、鉄道会社さんがこの車掌車の補修を始めてくださったからです。地域と協力するしなの鉄道は駅舎補修にあたり、2018年にデザインを募集、そこである高校生の作品が選ばれ1回目の補修、2023年11月には2回目補修として佐久平総合技術高校創造実践科デザイン系列生徒による応募が選ばれ、工業デザインの学びを生かし新駅舎の美化（下記写真参照）をすすめ、補修は完了。

これは工業を学ぶ生徒の社会貢献ですが、工業のある所に農業や人の営みがあります。地域と鉄道会社の合作で無人駅におしゃれな駅舎ができたな、と私はほのぼの気分。地域と学校で、若者が故郷信州と心が通ったかのように感じたからです。本連載・その3～5で地域の祭り、クラインガルテン、など若者たちが地域で育つ姿を語って来ました、今回は車掌車アートを紹介し、信州が育てる若者文化を紹介しました。

調べるとしなの鉄道平原駅舎と同じような駅舎は全国に何カ所かあるそうです。是非、全国で駅舎アートを育てていただきたいものです。駅舎がすでに充実している街であれば、駅舎を美術館にしていだけないものなのでしょうか？例えば、身近に絵を描く若者がいたら、あなたはその子とどんな対話をしてみますか？

以下は絵が好きな高校生と私の対話です。

- 私：君の絵はどこか、浮世絵を思わせるね
高校生：浮世絵って何？
私：例えば新しい千円札の裏、北斎という浮世絵師の作品だよ
高校生：お～あれか、あれ、浮世絵って言うの？
私：そう、だから君の絵は北斎を意識したのかと思ったよ
高校生：浮世絵じゃないよ
私：どこの国の絵師かなあ
高校生：進撃の巨人だよ（資料M）
私：それ、アニメだったかな
高校生：進撃の巨人を知らないの？
私：知らないけど聞いたことはあるよ、教えてくれる？
高校生：これだよ（私の教師用タブレットを操作して見せる）
私：ほう～この絵、どこか浮世絵だなあ

…どうでしょう、あなたの街にもこの高校生のような絵画をたしなむ若者がいませんか？どうか、そんな子たちを育ててください。若者は「ゆい」の一員となり、あなたの地域を担う人に育つのではないか、私はそう期待しています。

資料L：しなの鉄道平原駅1番線（旧上り線）から小諸方面を望む



改修前の駅舎 2023 年 秋 撮影



改修後の外観 2024 年春 撮影

* 佐久平総合技術高校創造実践科 工業デザインコース生徒作

第7回 大泉の学窓から信州へ その7 ”腹話術習得、実践の巻”

私と地域との繋がり、強い助けとなったのは基督教教会での腹話術活動です。信州移住から半年ほどで、私は日本基督教団上諏訪教会（資料 N）を見つけました。教会近所の得意先旅館への出入りが縁でした。以後教会生活を通して地域共同体「ゆい」と関わって来ました。現在は日本基督教団岩村田教会で活動しています。（資料 O）

教会ではずっとロゴス腹話術研究会（資料 P）という団体に属し、人形芝居を続けています。日本の腹話術愛好家の多くは基督教徒でした。発端は賀川豊彦牧師（資料 Q）と野田市朗氏（後に牧師）との対話だったと聞きます。野田市朗氏、芸名春風イチロー氏は元日本兵。持病の中耳炎で高熱となり、ようやく回復した時は終戦。復員後、落語家の前座となりました。生活は埼玉県大宮教会の居候だったそうです。（故野田市朗牧師ご長女・野田さん、次女・伊東さん談）

ある土曜日の夜に賀川豊彦牧師の特別伝道集会があり出席させられる。賀川牧師から『キリストを信じなさい。そうすればあなたは救われる。信じるものは手をあげろ』と言われ、若き芸人は悩んでいたので手をあげた。説教後、直接話しかけられ、「君、君の生涯を任せないか。ボクシをやらんか。」と言われ、それを「ボクシングをやらんか」と本人は聞き間違えてしまい、「はい、やります。」と答える。そして翌日の日曜日に洗礼を受け、月曜日には神学校に入った。

* 野田市朗牧師ご家族による執筆から

賀川牧師は月曜にイチロー師匠を農村伝道神学校（資料 R）に案内します。師匠は2年後、東京目白の日本聖書神学校（資料 S）に移ります。もちろんイチロー師匠は神学校寄宿舎前に案内され「あ！間違えた」と気づきましたが、訂正を願ったりはしませんでした。イチロー師匠はここで神からの呼びかけがあったと気づき、牧師へ転身します。わたしたち基督教徒は「野田市朗先生は神様に選ばれた方なのだな」と納得してしましますが、皆さんはこんな人生をどう受け止めますか？

やがて、イチロー師匠は演芸場の腹話術から、キリスト教教会向け腹話術を立ち上げ、弟子をたくさん育てました。私比田井慎爾もその一人です。私が信州で長く腹話術活動をしていることが助けとなり、諏訪地方や佐久地方で多くの方々が私を覚えてくださいました。その発端は上記のように「牧師」と「ボクシング」の聞き違いだった…では、まるで漫談です。しかし、私たちロゴス腹話術研究会による60年ほどの歩みも漫談のような物語だったのでしょう。賀川豊彦牧師と言えば協同組合の父（資料P）で知られますが、もう一つロゴス腹話術研究会の立ち上げに関わってくださった牧師でもあられます。地域共同体「ゆい」に関わるとき、何か一芸を持っていると、皆さんが私を覚えてくださいます。これは三億円犯人のあいつ…として覚えられるよりは、ずっと光栄でした。



岩村田教会「教会学校」での筆者による腹話術実演

出典、資料一蘭

第1回

[八ヶ岳農業大学校【公式】八ヶ岳農業大学校 | 自然の息づかいにふれ、感性が育つ場所。](#)

[八ヶ岳中央農業実践大学校 - Wikipedia](#)

[修練農場 - Wikipedia](#)

[寄贈品 No.49 - 満蒙開拓平和記念館ページ](#)

第2回

[三億円事件 - Wikipedia](#)

[三里塚闘争 - Wikipedia](#)

第3回

資料 d 男はつらいよ DVD コレクション 第10号 | デアゴスティーニ公式

資料 e 濱口罔雄詩集 土曜美術社 B6判、201ページ 商品コード 9784812017906

[放送大学 - Wikipedia](#)

第4回

資料 g 7実教 農業 327 グリーンライフ

978-4-407-20429-2 C4361¥00000E

資料 h 立科町公式サイトより複写 [クラインガルテン／立科町](#)

資料 i 資料 g 上記グリーンライフ 120頁

資料 j [御柱祭とケーブルTV「LCV」《諏訪大社の御柱祭》](#)

第5回

資料 k 道の駅立科 [道の駅女神の里たてしな | 関東「道の駅」公式ホームページ](#)

[クラインガルテン - Wikipedia](#)

第6回

資料 L [平原駅 | 沿線情報 | しなの鉄道株式会社](#)

資料 M [進撃の巨人 - Wikipedia](#)

第7回

資料 N：上諏訪教会：[日本キリスト教団上諏訪教会](#)

資料 O：岩村田教会と教会付属子雀保育園[小雀保育園](#)

資料 P：ロゴス腹話術研究所：[一般社団法人ロゴス腹話術研究会](#)

資料 Q：賀川豊彦：[賀川豊彦記念館](#)[賀川豊彦記念松沢資料館](#)、[協同組合運動 | 賀川記念館](#)

資料 R：[農村伝道神学校](#)[学校法人鶴川学院 - 農村伝道神学校](#)

資料 S：日本聖書神学校

[学校法人聖經学園日本聖書神学校 | 時代と教会の要請に応える伝道者・牧師を育成します](#)